

新ひだか町立病院コラム

Vol. 50

ビデオ喉頭鏡の勉強会を開催

人間の呼吸機能は時として低下したり、その機能を失うことは医療業界において珍しくありません。急性期の治療や不慮の事故などにおいて、自発的に呼吸が出来ない場合には「気管内挿管」という方法を用いて、気道を確保し、酸素吸入を用いることが多くあります。「気管内挿管」は手術の時に行われることもあれば、救急時に行われることもあるため、医療従事者は常に不測の事態に備え、医療機器の勉強を行っています。今回はモニターを見ながらスムーズに「気管内挿管」が行える「ビデオ喉頭鏡」の勉強会を日本光電(株)の方を招いて行いました。



三石国保病院管理栄養士の鈴木です。鍋物やご馳走から塩分をとりすぎやすい冬の季節。冬に血圧が上がるのは、寒さが血管を収縮させ、さらに塩分を体外に排出しづらくなるため。食塩をとりすぎると血液中の塩分濃度が高まり、その濃度を元に戻すために血管内に水分を送る結果、血液の量が増え、心臓はより強い力で血液を循環させます。その圧力に耐えるため、血管は硬くなり弾力性が失われていきます。

軽く考えがちな高血圧ですが、最近「動いたときの強い息切れ・朝から足がむくんでいる・どうしようもなくだるい。」もしかしたら既に心不全かも。ちなみに1年間に40~50代の男性が心疾患で8,000人、脳血管疾患で4,000人程が亡くなっています。

血圧を下げるには・・・

減塩が効果的です。ラーメン等の麺類、梅干し等漬物、塩魚やちくわなどの練り製品。本当は食べないことをオススメしたいです。

難しいなら、週に1回までにしたり、食べる回数を減らすほか、塩分を体外への排出を促す作用があるカリウムの多い「野菜やきのこ類」「果物」「乳製品」を今より多めに食べることも効果的です。

例) ラーメンにニラやほうれん草、きのこを加える。飲み物を1日1回だけ牛乳に変える。

バナナ1本、またはキウイ1個 or みかん2個を食べる日を増やす。など。

※三石国保病院でも血管の硬さと足の動脈の詰まり具合を測定できる、動脈硬化度検査(手足に機器を装着するだけ)をしています。興味がありましたら主治医にお伝えください。

院長のつぶやき

院長の小松です。

先日、ビデオ喉頭鏡を用いた気管内挿管の実習を行いました。「気管内挿管」とは、聞きなれない言葉かも知れませんが、患者さんの呼吸機能が著しく低下して自身では十分な呼吸が出来ない時に人工呼吸器を使用しますが、その時に気管の中へ直接管を通すことを言います。

最近ではネーザルハイフローや非侵襲的陽圧換気(NPPV)等、鼻カヌーやマスクで呼吸補助が出来るようになってきており、気管内挿管は救急医療のごく限られた状況での使用にとどまります。このため定期的に人形を用いた手技の実習を行い、動きを再確認しておくことが大切になってきます。

ビデオ喉頭鏡の前は、直接気管の入口を目で確認して、気管内挿管を行っておりましたが、患者さんの咳、痰、または吐しゃ物を被ることがあり、感染管理上問題となっていました。ビデオ喉頭鏡はその点、直接のぞき込むことはなく、感染の機会を減らすことが可能となりました。特に新型コロナウイルス感染症が流行してからはその重要性が再認識されております。

医療技術ならびに機器は日進月歩で開発が進んでいます。私たちもそれに乗り遅れることなく、知識や技術の取得に邁進していきたいと考えています。

作成:新ひだか町立病院

❁ 町立静内病院 0146-42-0181(代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

❁ 三石国保病院 0146-33-2231(代表)

新ひだか町三石本町214番地